

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
 大阪市中央区道修町3-3-10  
 大阪屋道修町ビル3F  
 06-6232-1095

## シンポジウム『損保と共済の社会的役割』第3弾 !! 一損保3メガ体制のもとで— 損保代理店の社会的役割を考える

今年4月より損害保険産業で第二次再編、合併・統合が始まります。

これにより三大メガ損保グループ体制がスタートし、外国では類のない異常な寡占化体制となります。この体制は契約者・従業員・代理店のためでなく、ひたすら「規模の拡大」と「効率化」のみの『利潤第一主義』へ突き進んでいくのではないかと懸念されています。

この流れに沿って、いま損害保険各社は事業費圧縮へ邁進しています。その矛先はいま代理店にも向けられています。代理店を単にコストとしてしかみなさず、儲からない代理店、会社方針に沿わない代理店は切り捨てるといった政策が横行しています。まさに労働者派遣切りと同じことを、損保各社は代理店に対して行なっています。

日本の損保産業を支え、セーフティネットを社会の隅々に広げてきたのが代理店です。代理店は契約者の生活や仕事を長年にわたりずっと親身になって考え、将来への安心のためにと保険商品を提供してきました。万一、事故があった時には「保険に入っていて本当に良かった」と感謝され、契約者・国民のみなさんと苦しみや喜びも共にし、社会の安心ネットワークの最先端で体を張って頑張ってきたのが代理店です。その代理店が代理店経営もままならず、将来展望も持てない現実にさらされています。そして、損保会社の従業員も「効率化」の下、職場実態の悪化と将来不安が広がっています。さらに言えば、この先には契約者に対しても「利潤第一主義」による切り捨てが懸念されます。

このような中で大阪損保革新懇では代理店問題プロジェクトを立ち上げ、昨年夏以降数回にわたって代理店のみなさんとともに将来の不安や悩みなど日頃の思いを出し合い、共通の問題点等をみんなで話し合っ

てきました。その結果、一「損保3メガ体制」のもとで—シンポジウム『損保代理店の社会的役割を考える』を開催し、みなでともに考え、ともに行動しようということになりました。このシンポジウムは2008年、2009年に開催したシンポジウム『国民生活に軸足を置いた損保代理店・外勤そして共済の社会的役割を考える』の第三弾として開催するものです。代理店の方々にとどまらず、損害保険産業に働くあるいは関わるすべてのみなさんに参加を呼びかけます。

### 記

日時：2010年4月14日（水）

午後6時半開会～8時半

会場：大阪府商工会館7階大会議室

◆地下鉄御堂筋線本町駅下車17番出口

第一講演 「最新の共済をめぐる情勢」

大阪府保険医協会 事務局長 杉嶋 正信 氏

第二講演 「損保代理店の社会的役割を考える」

兵庫県立大学大学院経済学研究科博士後期課程

松浦 章 氏（大阪損保革新懇世話人）

各界からの報告と決意

まとめ 代理店問題プロジェクト主査 小畑裕久氏

### 映像で見る「中東情勢講演会」開催

2/18アフガニスタンからの報告に51名参加！

講師 イラクの子どもを救う会 西谷 文和さん

2月18日（木）アイクルの部屋にて、ジャーナリストの西谷文和さんが、昨年末と年明けに戦火激しいアフガニスタンを訪問し最新映像をもとにイラク&アフガン戦争について報道されない現実について講演されました。アイクルの部屋は51名の参加者で満杯となる中、生々しい映像が映し出され講演を真剣に聞き



入りました。西谷さんを招いての講演は2004年の5月を皮切りに今回で5回目となります。

講演は、初めに6チャンネル「報道ステーション」で古館アナウンサーと西谷さんが登場し、アフガニスタンを訪問し米軍の空襲によって市街が破壊され住民や子どもたちが被害を被っている鮮烈な映像が写し込まれました。講演はオバマ大統領はイラクから米軍を引き上げているが、アフガニスタンへは3万人の増派を行い戦争を拡大している。イラク戦争でのブッシュ前大統領とビンラディンとの本当の関係は？ アメリカがイラクにこだわる理由は何かなどいくつかの理由が述べられました。戦争はウソはでっち上げ事件で始まる場合が多い。9.11事件を冷静に振り返る必要がある。今、憲法9条を持つ重要性和平和を守ることを訴えられました。

講演後、恒例により西谷さんも交えて飲食しながら懇親会がなごやかに行われました。

当日「イラクの子どもを救う会」へのカンパが4万2千円が集まりました。

\*\*\*\*\*

## 高田橋さんののたたかい 裁判所あて要請ハガキ作戦に全力を！

高田橋さん第11回裁判は、2月15日（月）午後1時半から大阪地裁にて、弁論準備・進行協議が行われました。

これまでの最高の59名の傍聴者がかけつけ廊下で見守りました。

梅田弁護士は「裁判官への訴求力の面では廊下傍聴の力は大きい」と話されています。安藤隆元さんの証人申請も、裁判長がすんなり承認されました。

日勤外勤の仲間は、和解の報告の労組まわりで高田

橋さんのはがきを300枚紹介してくれました。

## 5月13日、14日に法廷にて本格的な証人調べ！ 当日は休暇をとって傍聴者で埋めつくそう！

次回4月20日（火）午後3時半からもう一度進行協議が行われます。

5月13日（木）、14日（金）の両日に原告・被告双方の証人調べが行われます。

高田橋さんが「このまま泣き寝入りしない」と人間の尊厳と誇りをかけて、被告会社と副田社長を相手どっての裁判がいよいよ正念場となります。

高田橋さんは上司のパワハラにより2007年8月「うつ状態」で病欠となり、2008年6月13日に提訴してからすでに1年8ヶ月が経過しています。10回にわたる進行協議が重ねられてきました。いよいよ法廷において本格的な証人調べとなります。

私たちは当面裁判所への要請ハガキ1000枚作戦に全力をあげ5月13日、14日の両日を「高田橋デー」として休暇をとって多くの傍聴者で法廷を埋めつくすことを確認しました。

<当面の日程>

4月20日（火）午後3時半～

大阪地裁8階 第12回裁判弁論準備・進行協議

5月13日（木）午前10時～

大阪地裁810号法廷 第13回裁判 証人調べ  
（原告側証人）原告と奥さん 元同僚など2名

5月14日（金）午前10時～

大阪地裁611号法廷 第14回裁判 証人調べ  
（原告側証人）元同僚1名、  
（被告側証人）被告個人本人、社員2名

裁判所への要請ハガキを1通同封しますので、住所・氏名・一言ご記入の上ご投函願います。

高田橋洋一さんとともにたたかう会

